

## 卒業生・修了生インタビュー

### 思い出のキャンパス 大きな翼はぐくんだ

#### 学部

#### ハンドボールで社会人と汗流す

飯沼 達郎さん

経済学科、澤野徹ゼミ、村上俊介ゼミ

ハンドボールのクラブチームに入り、汗を流して社会人と交流した体験が、自分を大きく成長させてくれました。

チームは昨年、東京都クラブリーグ戦4部で優勝、3部リーグに上がりました。出身の上田高卒業生で組織され、弁護士や会計士もいます。入学前は教員志望でしたが、企業就職に方向転換したのは、企業の第一線で働いている先輩たちのお付き合いがあったから。就職活動では、4年間で築き上げた自分自身を試すつもりで臨みました。

村上先生のゼミでは、自動車産業の比較経済を学びました。亡くなられた澤野先生とは、合宿を終えたあと白馬ヘスキーをご一緒し、貴重な思い出になりました。

#### 英字新聞で学び 国際交流考える

亀山佳奈絵さん

国際経済学科、常行敏夫ゼミ

英語を生かし、グローバルな視野を養いたいと国際経済学科を志望しました。英字新聞の時事問題を読み解く常行ゼミで鍛えられ、3年次にはゼミ長を務めました。学生の考え方を尊重しつつも妥協を許さない先生の期待に応えたく、私たちが懸命に取り組んだことが大きな糧になりました。

一昨年の春、タイ、カンボジアを、初めての一人旅で訪ねました。貧しい子供たちの姿を目の当たりにし、衝撃を受けました。一人ひとりがどうやって国際協力に取り組むかを考えると同時に、親のありがたさを知り、一回り大きくなったかな、と自覚しています。何でも話せる親友を得たことも大きな収穫です。

就職先は、顧客のニーズに応える物流の会社です。4年間の蓄積を生かせたらと思っています。

#### 先輩の話から「国I」に挑戦

小野 悟さん

(3面川島記念奨励賞の項参照)

財政学を学んだ望月ゼミでの活動が、学生生活の「核」になりました。仲間たちと議論を通じて未知の分野を理解していったことが、学ぶことへの意欲につながりました。

経済産業省勤務のゼミの先輩からお話を聞く機会があり、国家公務員採用 I 種試験に挑戦を決意。「日本をどのようにしたらいいのか」を考えている姿に接し、公務員としての仕事にやりがいを持ち、ご自分の成長を楽しんでおられる様子に刺激を受けました。地方公務員として就職が決まり、企業誘致問題に取り組んでいきたいと思えます。

望月先生をはじめ経済学部の先生方はみな親しみやすく、質問をすると、気軽に応じてくださったことで親密感が増しました。友人に恵まれたことも財産になりました。

## 学部乗り入れ制活用し 広く受講

岩田 和雄さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

仕事と学業の両立を意識し、欠席しないこと、興味を持って積極的に講義に出席することを心がけてきました。周囲に迷惑をかけないようにスケジュールを調整することが難しかったですが、経済学に興味深く学ぶことができたので、苦労したとは感じていません。川島賞を受賞したことに驚いていますが、4年間の成果を形として残すことができ、両親も喜んでくれました。

「学部間相互乗り入れ制度」を大いに活用し、経済に直結した科目だけでなく、法学や経営学、マーケティング論などの講義を受けたことで知識が広がり、さまざまな分野に興味を持つようになりました。本学で得た幅広い知識を今後に生かしたいと思います。

## バレーとゼミ「挑戦」教わる

馬場 学美さん

法律学科、山田創一ゼミ、バレーボール愛好会

バレーボールとゼミ活動に燃えた学生生活でした。大学に入ってから本格的に始めたバレーボール。週2回の練習を積み、2年次春には公式戦で関東学生ベスト16に入りました。エネルギッシュな山田先生のゼミ活動では、語り合う楽しさ、挑戦する素晴らしさを教えてもらいました。

入学時に漠然と目標にしていた国家公務員採用Ⅱ種試験の挑戦を決め、2年次から公務員講座を受講。3年次後期からは課外活動やアルバイトを一時止めて集中して取り組みました。念願かなって国土交通省に入省が決まりました。往復4時間かかった通学ですが、時間を有効に使う術も身につきました。

## ゼミ長を2年間 自分磨き心がけ

田代 径大さん

法律学科、山田創一ゼミ

民法の事例から法律を学ぶ山田先生のゼミで2年間、ゼミ長を務めたことが貴重な経験になりました。ゼミ合宿では学びと遊びを存分に楽しみ、目標に取り組む姿勢を養い、ゼミ内のコミュニケーションの活性化を図りました。論文を書く鍛錬を重ねたことで、文章力が身についたと思います。「難しいことをやさしく」という文章を書く基本も知りました。

自己表現の場としてファッションに興味を持っています。衣服は生活必需品であると同時に、自身の価値観の反映であり、ライフスタイルにもつながるもの。美術、写真、インテリア、映画など「いいもの」をたくさん見て、自分磨きを心がけたのも財産になりました。就職先でそんなところを生かせたらと思っています。

## 法律知識と共に“思考法”を学ぶ

吉川 美保さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

職場で必要な知識を補い、スキルアップにつなげることを目的に入学しました。2年次に裁判所書記官の研修所入所試験に合格し、3年次から昼は研修所で学び、夜は本学で講義を受けるハードな日々でしたが、現在は研修を終え、書記官として働いています。あっという間の4年間で、今思うとよく頑張ったなと思います。川島賞を受賞できたことで、大学での学びが自分の身になっていたことを実感でき、うれしく思います。

家永登先生の親族相続法など、具体的で分かりやすい講義が多く、法律知識と法律的な思考法を学ぶことができ、以前と比べ、根拠を持って物事に対応できるようになったと思います。働きながら学ぶ友人たちと励ましあい、ネットワークを広げた大学生活でした。

## 他大学のゼミと成果を競い合う

松場 彩さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

3年次の時に日本学生経済ゼミナールのインナー大会にチームで出場。他大学の経済系ゼミと日ごろのゼミ活動の成果を競い合ったことが忘れがたい体験となりました。

ゼミでマーケティングを学び、大会では「スターボックスの新サービス」をテーマに発表しました。評価は厳しく反省点も残りました。しかし、1年近く準備し討論を重ねたことで仲間とのきずなが深まり、成果は大きかったと思います。

講義は遅刻・欠席なしを心がけました。「HEIB講座」も受講。スーパーマーケットで、多い時は週5日間アルバイトし、無遅刻で通したことでお店の方々に信頼されました。「頑張った」一つひとつの積み重ねが、就職活動や川島記念学術賞に結びついたと思います。

## 苦しい練習共に越えた仲間たち

北村 俊輔さん

商業学科、川野訓志ゼミ、ラクロス愛好会

高校時代はラグビー部で、「花園」にも出場。大学では違ったスポーツに挑戦しようと、ラクロスを始めました。監督もコーチもいないため先輩の指導で技を覚え、「目標達成に足りないものは何か」考えました。

3年次の秋、関東学生の3部リーグ戦で準優勝したものの入れ替え戦で敗退。昇格を先輩にプレゼントできず苦い思い出になりました。しかし、苦しい練習を共にくぐり抜けてきたかけがえのない仲間ができました。

授業でマーケティングの大切さを学び、自分の得意分野を考えた結果、就職では「接客業」というキーワードが残り百貨店に。安心して買い物をしていただく魅力的な売り場を、いかに演出していくか。お客様から「あなたがいるから買い物に来た」と言わせる売り場の達人を目指します。

## 「美唄」→「生田」キャンパス満喫

田中 綾香さん

商業学科、ラブラリー・フォーク愛好会

アットホームな美唄の短大から規模の大きい専大に編入。4年間で二つのキャンパス生活を、存分に楽しみました。

音楽が大好きで、ロックやJポップスなどを演奏するラブラリー・フォーク愛好会でバンドを組みました。パートはボーカル。鳳祭のステージやライブハウスに出演したことが最高の思い出です。

マーケティングをロケーションで考える前川明彦先生の「産業立地」の授業が面白く、マーケティングへの興味が募りました。卒業後は「Uターン」と決めていましたから、北海道の企業を志望。昨年、育友会支部懇談会北海道地区の4会場で、ご父母を前に就職活動体験を話す機会に恵まれたのも得がたい体験です。

## 準優勝と川島賞 文武両道を実践

坂上 薫さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

5年間で学部と修士課程を修了する商学特修コースに学んでいます。実家が古紙問屋を営んでおり、古紙業界から中小企業の現状や問題点を突き止め、展望を探っています。中小企業が専門の黒瀬先生のご指導で、製紙会社へのインターンシップや中小企業の後継の方々と一緒に研修するなど貴重な体験で、地域密着や情報を共有する大切さを実感しました。

高校から始めた弓道は昨夏、全日本学生選手権の個人戦で準優勝を飾りました。大舞台で好成績を収めることは、高校時代からの夢で最高の思い出に。強くなるひけつは「謙虚であること」に尽きると思います。

「文武両道」を実践したことで商学部長賞も受賞、川島賞の受賞と共に大きな励みになりました。弓道は学部と共に卒業ですが、あと1年、テーマの追究に努めます。

## 120点満点の大学生活 北京五輪へ全力

川内 将嗣さん

(3面川島記念体育賞の項参照)

世界選手権での銅メダル、北京五輪出場権獲得など、納得のいく結果を残せただけでなく、学業とスポーツの両立も果たすことができ、120点の大学生活でした。

体育寮の仲間、ボクシングを通じて出会った方々など、さまざまな人と出会い、この4年間で人とのつながりの大切さを知りました。特にレスリング部の稲葉(3面川島記念体育賞の項参照)ら、国際大会で活躍した仲間からは大きな刺激を受けました。大学に入るまでは自分を中心に物事を考えがちでしたが、視野を広く持てるようになったと思います。

8月の北京五輪に向けては、メダルのことは考えず、チャレンジャーとして悔いの残らないように臨みます。2012年ロンドン五輪も視野に入れ、これからもアマチュアボクシングを続けていきます。

## サッカーに燃え 勉強もバイトも

青崎 健さん

二部商業学科、飯田謙一ゼミ、サッカー一部

大好きなサッカーを軸に完全燃焼しました。朝6時から2時間半、生田北グラウンドで練習したあと9時半から17時までアルバイト。夜は神田キャンパスで授業に出席、生田のアパートに戻るの23時。翌朝の練習が待っているのですぐに就寝…その繰り返しで気の抜けない毎日でした。

仕事は、生田周辺での土木作業。学費も生活費も稼ぎました。もちろん勉強も一生懸命やって教職課程を履習し、飯田ゼミで国際経営を学びました。奨学金もいただきました。就職活動では「すべて手を抜かずやり遂げた」とアピールしました。

忘れられない試合は、2年次春の関東リーグ戦(2部)での日体大戦。流れが悪い中、途中出場場で得点を挙げたことです。現在チームは1部に上がりました。胸を張って卒業します。

## 「学業」と「仕事」両立の4年間

小林 寛人さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

学業と仕事に目いっぱい頑張った4年間でした。「就活」では、その両立が評価されました。

2年次から築地にある酒卸問屋で経理の仕事の続けました。月末の忙しい時期は、朝7時に出社。夕方6時からの授業に遅刻しないよう、必死でした。授業中は睡魔との闘いです。くじけそうになった時、自立を胸に山形から上京した時の決意を思い出しました。

一部の学生がうらやましいと思ったこともありましたが、机を並べた社会人から話を聞けるのは、二部の学生にしか経験できないこと。授業で分からないところは、その日のうちに先生に質問して解決するよう心がけ、試験前に、みんなで助け合って乗り越えたことも懐かしい思い出です。

商品開発に興味があり、次は理系の大学にチャレンジしたい。学びへの情熱は尽きません。

## 新たな観点で「地理」を探究

田村 智彦さん

人文学科、米田巖ゼミ、サーフライフセービング愛好会

幅広い視点で地理をとらえたいと米田ゼミに入り、卒論は「交通地理学」をテーマにしました。フィールドワークを重視する「環境地理学専攻」は少人数で先生との距離が近く、小さいころから好きだった地理を新たな観点から、より深く探究できました。副代表を務めたサークルでは、人とのつながりの大切さを学びました。夏に九十九里海岸で一緒に活動した仲間や地元の方々と交流した思い出は社会人生活の糧になると思います。

就職アドバイザーを経験し、伝えるだけでなく「相手から聞きだすこと」の大切さを学びました。培ったコミュニケーション力を生かし、「田村に任せれば安心」と頼られる社会人を目指します。

## 幅広い視点もち「歴史」ひもとく

児玉 千尋さん

人文学科、日暮美奈子ゼミ

長期休暇を利用して、フィリピン、ネパール、モンゴルのワークキャンプに参加し、井戸を掘ったり、水タンクをつくったりするボランティアを体験してきました。現地で出会った、国際経済や社会学を学ぶ他大学の友人の影響で、社会学にも興味をもち、卒論は「近代イギリスの売春」についてまとめました。

アンダーグラウンドにも目を向け、女性史をひもとくことは、さまざまな立場の人の見方、歴史、事件を知ることとなり、多角的なものを見方を学べました。既に読み解かれたものを覚えるのではなく、幅広い視点で体系的に「自分だけの」歴史像をつくりあげること。卒論を仕上げたとき、大学で歴史を専攻した意義をつかめたと思います。

## 米戦車を止めた市民闘争卒論に

栃折 恵子さん

人文学科、新井勝紘ゼミ

卒論のテーマは「相模原戦車闘争」。内容は相模原地方自治研究センターの機関誌に掲載され、全国紙など数社から取材される反響を呼びました。1972年夏。冷戦下、ベトナム戦争が泥沼化したこの時代に、実家のすぐ近くの米軍基地で「ベトナムで人を殺す」ための戦車の搬出を100日間も阻んだ市民闘争があったことを、ゼミ指導の新井先生を通じて知ったのがきっかけです。

サラリーマン、主婦、学生など“ただの市民”ら1万人が権力に立ち向かった史実とその後を追い、関係者7人にインタビューしました。発生から35年。ベトナム戦争をまったく知らない学生が検証した「闘争史」が、思わぬ評価をされまし

た。新井ゼミで培われたフィールドワーク魂が生かされたと思います。

## 「個人型労組」の存在価値を探る

浦野 季保さん

### 3面川島記念学術賞の項参照

社会学と漫画。この二つを軸にした大学生生活でした。卒論のテーマは「コミュニティ・ユニオン」。生きていく上での本質から労働問題に興味を持ち、ゼミの柴田先生の示唆もあって、地域を基盤とする個人加入型労働組合の存在価値を探ろうと、実際に聞き取り調査を行いました。

琴線に触れた先生の授業に、「お返し」するつもりで精魂傾けてレポートを書きました。大学の授業は「師弟」が刺激し合うことで、よい関係が生まれると思います。空き時間は必ず図書館に。ここを十二分に活用し、普段は手にできない豪華本や洋書などをひもといたことで、勉学や趣味での新たな発見につながりました。

漫画研究同好会では、品評会や会誌作りで刺激し合い、創作活動に励みました。大好きな漫画は卒業後も描き続けます。

## F1の感動を持ち続けたい

鈴木 哲也さん

ネットワーク情報学科、本田厚子プロジェクト

中学のときにF1で見た『HONDA』マシンに感動。「将来はこの会社で働きたい！」との夢を描き10年。就活ではアルバイト経験で高めたコミュニケーション力でアピールし、念願がかないません。ロボットもつくっていて、「ものづくりの夢」を社会に広げている会社です。いずれはF1チームの運営に携わりたいと思っています。

プロジェクトは、「異文化との交流」をテーマに、国際研修館に宿泊していた外国人留学生にインタビュー。日本との違いを映像やアニメーションで表現しました。リーダーとしては、メンバーのモチベーションを上げることが心がけました。協力して目標を達成するという経験は、今後にも必ず役立つと思います。

## プロジェクトの論文が広報誌に

永添めぐみさん

ネットワーク情報学科、佐藤創プロジェクト

「コミュニケーションツールの可能性を探る」をテーマとしたプロジェクトで、ソフトウェア「メッセージ」の利用状況のアンケート調査・データ解析を行い、佐藤先生と友人と共同で作成した論文が学部の広報誌に掲載されました。数学は不得手でしたが「分からないことはそのままにしない」ことを心がけ、周囲の支えで理解を深め、数学の面白さを感じるまでに成長できました。

就活ではやりたいことが見つからず、家族、友人、就職課、学生相談室の方々などに相談し、時間はかかりましたが、等身大の自分でいられる会社にめぐりあうことができました。大学生活は、自分で動かなければ何も変わりませんが、行動すればその分、答えが返ってくる実感しました。

## 可能な限りの挑戦が成果に

上保 朝美さん

(3面川島記念学術賞の項参照)

プロジェクト、卒業研究、企業研修、コウサ展などで可能な限りチャレンジし、その結果が学術賞総代につながったと思っています。グループ作業のプロジェクトでは「デジタル万華鏡」を完成

させ、学生の人気投票で2位に入りました。サブリーダーを務め、一連の作業を通じて人をまとめる大変さを感じました。

「卒制」では難しいグラフィックに挑んでゲーム作り。時間が足りず完成度はいま一つでした。ここでは時間をマネジメントする難しさを痛感しました。いずれにおいても心がけたことは、手抜きを絶対にしないこと。

「こんなこと、自分ができるだろうか」と始めたことが、「やればできる」という確信につながりました。大学は挑戦の場。そう実感しています。

## 大学院

### 地理学の研究 仕事に生かす

阿部 亮吾さん

(3面大学院修士課程総代の項参照)

地理学は、何万年という長いスパンで考え分析するところに他の分野との違いや面白さがあると思います。それは過去だけではなく、未来を見据えることにもつながります。自然の中では人間も一つの「パーツ」に過ぎないと実感します。

専門は河川における植生地理学。河川の分断個所での地形発達と植生変化の研究や自然再生の研究です。修士論文では、北海道の根釧原野の西別川を「舞台」にしました。学部時代、地理学の面白さを教えていただいた平井幸弘教授や、厳しく優しく指導して下さった高岡貞夫教授とのフィールドワークは忘れがたい思い出です。

修了後は測量の技術を生かし、国際航業で技師として働くことになりました。これまで積み上げてきた研究を、思考回路に組み込んで仕事ができると期待しています。

### 「人間を見る」重要性教わる

柴田 守さん

(3面大学院博士後期課程総代の項参照)

犯罪に巻き込まれた被害者と加害者が向き合うことで、コミュニティーを含めた関係の回復やダメージの修復を目指す「修復的司法」。欧米諸国ではさまざまな形態で実践されているこのシステム、日本でも一部のNPOや弁護士会により取り組まれています。さらに少年司法システムの抜本的な改革で制度として実現されることが望まれます。大学院ではその可能性を探究しました。

指導教授の岩井宜子先生からは「人間を見る」重要性を教わりました。刑法の日高義博先生、刑事訴訟法の小田中聰樹先生、小出鏗一先生など、学問に限らず人間的にも尊敬できる先生方にめぐり合えたことは大きな喜びで、学究の幅が広がりました。「本の町・神田」にキャンパスがある環境にも恵まれました。

専攻は刑事政策学。この分野は法学のみならず社会学、精神医学、生物学など幅広い知見が必要とされ、そこに研究の醍醐味があります。10年にわたる専大生活で、その醍醐味を味わいました。]